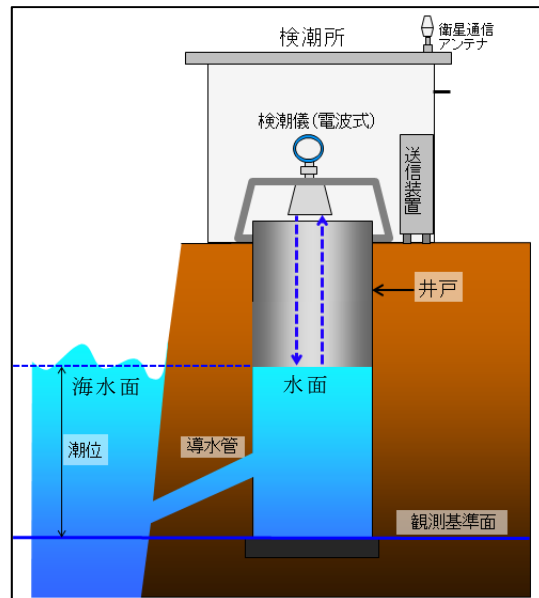


海の水面の高さのことを「潮位」とよび、海岸などの岸壁に建てられた検潮所などで観測しています。

検潮所は小さな建物の中に井戸があり、導水管という管で海とつながっています。導水管は、井戸の中の水面と海の水面の高さを同じにする役割をしています。

気象庁の多くの検潮所では、電波式の検潮儀という器械を使って潮位をはかっています。

この検潮儀は、井戸の上から水面に向けて電波を発射し、電波が水面にはね返って戻ってくるまでの時間を計算して潮位をはかる器械です。



観測のイメージ図

観測された潮位のデータは、電話回線を通して気象庁に送られますが、電話回線が故障や災害などで使用できなくなった場合は、衛星回線を使ってデータを送ることができます。



検潮所

検潮所を建てることのできない場所では、津波観測計とよばれる器械を、できるだけ波の静かな堤防や岸壁に設置して観測を行っています。

検潮儀と同じように、電波で海の水面をはかる津波観測計（図中○）のほかに、海水の圧力の大きさから津波の高さをはかる巨大津波観測計（図中●）もあります。

潮位計や津波観測計の高さをこえるような大きい津波は、巨大津波観測計で高さをはかります。

